

令和 6 年度厚生労働行政推進調査事業補助金
政策科学総合研究事業(政策科学推進事業)

「DPCデータを用いた入院医療の評価・検証及びDPCデータベースの利活用に資する研究」
分担研究報告書

正常分娩の保険診療化に向けて考える日本の課題

研究協力者 青山瑤子（産業医科大学医学部公衆衛生学 大学院生）

研究協力者 渡邊文雄（産業医科大学医学部公衆衛生学 大学院生）

研究協力者 得津慶（産業医科大学医学部公衆衛生学 助教）

研究協力者 村松圭司（産業医科大学医学部公衆衛生学 准教授）

研究分担者 松田晋哉（産業医科大学医学部公衆衛生学 教授）

【概要】

A. 研究目的：日本において「お産」は正常分娩として、保険診療の対象外、つまり自費診療として扱われている。現状の正常分娩では、各医療機関が独自に費用（個室料金、無痛分娩費用など）を設定している。2023 年 12 月に閣議決定した「こども未来戦略」で、日本政府は 2026 年をめどに正常分娩の保険適用を目指す方針を明記した。本研究によって、海外の包括医療による正常分娩を参考として、日本の分娩の保険診療化について考察する。

B. 資料及び方法：

イギリスは HRG、フランスは GHM、ドイツは DRG による包括医療が存在するため、その医療制度によって設定された分娩費用を比較研究に使用した。それぞれの正常分娩と選択的帝王切開分娩にかかる医療費を 1€（ユーロ）=160 円、1£（£）=190 円で換算した。さらに在院日数の平均・中央値についても比較した。日本の場合は正常分娩にかかる入院費用は各病院が設定しており、詳細を把握することができない。ただし選択的帝王切開については DPC データで医療費、在院日数の平均・中央値を調査した。本研究は産業医科大学倫理審査委員会の承認（承認番号：第 R4-046 号）を得た。

C. 結果：表 1 に各国の分娩費と入院日数を示す。

欧州 3 カ国ともに正常分娩は 40 万円前後、帝王切開/正常分娩の費用比率は 1.5 前後であった。日本は諸外国よりも入院日数が長い傾向があった。

D. 結論：正常分娩の医療報酬の設定は、現時点で都市と地方で格差があるため議論が難しい。それ以上に入院日数の調整が優先されるべき課題かもしれない。

参考資料

OECD

([https://dataexplorer.oecd.org/vis?df\[ds\]=dsDisseminateFinalDMZ&df\[id\]=DSD_HEALTH_PROC%40DF_HOSP_AV_LEN_GTH&df\[ag\]=OECD.ELS.HD&df\[vs\]=1.1&dq=GBR%2BFRA%2BDEU.....DICDB506%2BDICDB505.....&pd=2010%2C&to\[TIME_PERIOD\]=false&vw=tb](https://dataexplorer.oecd.org/vis?df[ds]=dsDisseminateFinalDMZ&df[id]=DSD_HEALTH_PROC%40DF_HOSP_AV_LEN_GTH&df[ag]=OECD.ELS.HD&df[vs]=1.1&dq=GBR%2BFRA%2BDEU.....DICDB506%2BDICDB505.....&pd=2010%2C&to[TIME_PERIOD]=false&vw=tb))